

新しい価値には新しい言葉が必要だ。

大地そのものを相手にする。

そして、その底に流れてる諸処の妖怪と闘うイメージ。

「GROUNDSCAPE」という新しい言葉は、未来に向けて放たれた矢だ。

大地とその上に暮らす人間からやり直すこと。

3.11以降、より強くこの言葉が求められている。

“ G R O U N D S C A P E ”

グラウンドスケープ



2016.9.18 [SUN] 15:00

グラウンドスケープ福岡上映会

14:30 開場・受付開始

15:00 上映開始

16:20 ゲストを交えたトーク（60分程度）

聞き手：柴田久（福岡大学工学部社会デザイン工学科教授）

会場：松楠居 福岡市中央区 事前申込
大名2-1-16 先着40名

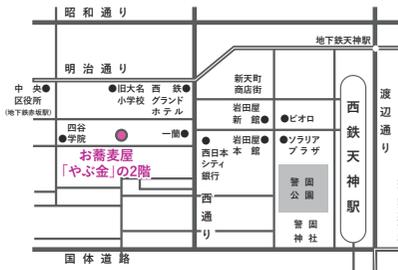
風景デザイン研究会会員 ¥500 / 一般 ¥1,000 / 学生 無料

（参加申込・問い合わせ・事前質問受付）

MAIL ea@dna1986.jp TEL 092-663-1876

主催：GROUNDSCAPE福岡上映実行委員会

共催：風景デザイン研究会 協力：NPO GSデザイン会議



GROUNDSCAPE

監督・撮影・編集 岩本健太 | 音楽 ENA

製作 GS PAPER | 2016年 | 66分

震災から5年を経て薄れゆく現場のリアルな状況を、テレビや新聞では触れることが無い視点からドキュメンタリー映像としてまとめた作品です。3.11以降、被災地の復興に関わる土木、建築、都市などの専門家の本音と現地の風景（2015年秋）で構成されており、被災地の復興だけに留まらず、日本の社会の抱える現実と矛盾について考える内容となっています。多くの若い方に見てもらい、現代を生きる思想のあり方を問いかけます。現在21_21DESIGN SIGHTにて開催中の「土木展」出展映像作品。

ゲスト 平野 勝也

景観研究者

東北大学災害科学国際研究所准教授

1968年生まれ。東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修士課程修了後、建設省（現国土省）に入省。

1995年東北大学工学部土木工学科助手、講師を経て2012年より現職。主な研究テーマは、街路イメージ・都市の記憶・認識など。

3.11以降、宮城県を中心に、石巻市、女川町等の復興計画、岩手・宮城各地の防潮堤・水門のデザインや陸前高田の復興記念公園などに実務的に関わっている。GSデザイン会議メンバーで"GROUNDSCAPE"に出演。